

かいぎろく 会 議 録

かいぎめいしょう 会議名称	だい き さいわいくくみんかいぎ だい かいせんもんぶかい ひと こうつうあんぜんぶかい 第6期幸区区民会議 第3回専門部会（人にやさしい交通安全部会）
にち じ 日時	へいせい ねん がつ にち か 平成28年12月20日（火）18：30～19：50
かい じょう 会場	さいわいくやくしよ かいだい かいぎしつ 幸区役所 4階第4会議室
しゅつせきしゃ 出席者	くみんかいぎいん おんじゅん ●区民会議委員（50音順） あべのりひろいん いいじただおいん おのはるこいん けおばさーと らつあみちゃんいん 阿部法弘委員、飯島忠男委員、小野晴子委員、ケバサートラファミチャン委員、 さかぐちきおいん しぶたにた み え いん たかはしみ さ こ いん はしもとふみおいん みうらただかずいん 坂口 功 委員、渋谷多美枝委員、高橋美三子委員、橋本文夫委員、三浦忠一委員 ●事務局 さいわいくやくしよたむらふくくちよう 幸区役所田村副区長 さいわいくやくしよ すいしんぶきかくか きしかちょう よしおかかちょう ほ さ うしわかしゅにん うじえしよくいん 幸区役所まちづくり推進部企画課 岸課長、吉岡課長補佐、牛若主任、氏家職員、 さいわいくやくしよ き かんりたんとう みやだてたんとうかちょう 幸区役所危機管理担当 宮館担当課長 かぶ しゃかいくかんけんきゅうじょ なかじま し たのうえ し （株）社会空間研究所 中島氏、田上氏
けつせきしゃ 欠席者	あおきはるひこいん かねだ いん 青木晴彦委員、金田さとみ委員
ぼうちょうしゃ 傍聴者	なし
はいふしりよう 配布資料	ぎ じ しだい ●議事次第 しりよう ひと こうつうあんぜんぶかい ちょうさしんぎすけじゅーる ●資料1 「人にやさしい交通安全部会」調査審議スケジュールについて しりよう へいせい ねんどうさいわいくくみん あん けー とちょうさ がいようばん ●資料2－1 平成28年度幸区区民アンケート調査（概要版） しりよう へいせい ねんどうさいわいくくみん あん けー とちょうさ ぶかいかんれんぼつすい ●資料2－2 平成28年度幸区区民アンケート調査（部会関連抜粋） しりよう さいわいくくみん あん けー とけつか けいねんひかくいちらん ●資料2－3 幸区区民アンケート結果 経年比較一覧 しりよう こんご とりくみないよう ●資料3 今後の取組内容について しりよう どうろひようしき ●資料4 道路標識について さんこうしりよう だい き さいわいくくみんかいぎ すけじゅーる ●参考資料 「第6期幸区区民会議」スケジュールについて
ぎ だい 議題	1 ちょうさしんぎすけじゅーる 調査審議スケジュールについて 2 へいせい ねんどうさいわいくくみん あん けー とちょうさ 平成28年度幸区区民アンケート調査について 3 こんご とりくみないよう 今後の取組内容について
けつていじこう 決定事項	1 ちょうさしんぎすけじゅーる 調査審議スケジュールについて ・資料1により今後のスケジュールを確認・共有した。 2 へいせい ねんどうさいわいくくみん あん けー とちょうさ 平成28年度幸区区民アンケート調査について ・資料2により、幸区区民アンケート調査の結果を報告した。 3 こんご とりくみないよう 今後の取組内容について ・主な対象は「子ども」とし、その中には外国人や障害者、親子といった要素を含む。 ・区内で発生した交通事故の「年齢別」「時間帯別」「外国人が関係する事故」について、幸警察署に確認する。確認方法は別途調整する。 ・「子育て世帯」「障害者」「外国人」「高齢者」を対象（子どもが関係する事象も想定し幅広く調査）にヒヤリ・ハットを感じた箇所の調査を実施する。確認し

	た箇所は区内地図に記載し、オリジナルマップを作成する。 ・認知度の低い交通マナーやルールの確認は、今後実施することを視野に入れ、次回部会以降に確認事項等を検討する。 ・調査の担当は、調査対象と日程調整のうえ、可能な部会員が参加する。その際、参加できる部会員の中から主担当を決める。参加できない部会員には直近の部会で報告する。
かいぎ ないよう 会議の内容 および おも はつげん 主な発言	1 調査審議スケジュールについて ●事務局より資料1について説明した。 ○資料1により今後のスケジュールを確認・共有した。 2 平成28年度幸区区民アンケート調査について ●事務局より資料2について説明した。 ○資料2により、幸区区民アンケート調査の結果について、交通安全等に関する区内の現状について報告した。 3 今後の取組内容について ●事務局より資料3について説明した。 ○主な対象は「子ども」とし、その中には外国人や障害者、親子といった要素を含む。 ○区内で発生した交通事故の「年齢別」「時間帯別」「外国人が関係する事故」について、幸警察署に確認する。確認方法は別途調整する。 ○「子育て世帯」「障害者」「外国人」「高齢者」を対象（子どもが関係する事象も想定し幅広く調査）にヒヤリ・ハットを感じた箇所の調査を実施する。確認した箇所は区内地図に記載し、オリジナルマップを作成する。 ○認知度の低い交通マナーやルールの確認は、今後実施することを視野に入れ、次回部会以降に確認事項等を検討する。 ○調査の担当は、調査対象と日程調整のうえ、可能な部会員が参加する。その際、参加できる部会員の中から主担当を決める。参加できない部会員には直近の部会で報告する。 おも いけん 【主な意見】 <自転車等の交通安全について> ・新川崎は自転車レーンがあって歩車分離ができているわけだが、交通ルールを守らないと意味がない。「自転車運転者が斜め横断する」「歩行者が横断歩道ではないところを横断する」といった事例もよく見る。 ・本日、幸区役所で老人クラブの交通安全教室があり、約150人の仲間が来て、講習を受けた。神奈川県に2セットしかないという貴重な「歩行環境

シミュレータ」を使用した体験などもあり、横断歩道のない道を安易に渡る行為は危険だと改めて感じた。

- 交通安全キャンペーンなどを実施していて、交通ルールやマナーを知らない人が多いと感じる。子どもよりもそのお母さんの方が知らないことがある。自転車は左側通行だが、お母さんが右側を平然と走っている。それを指摘するとムッとした顔をされたこともある。どうしたらルールを守ってもらえるか、受け手側の心理なども考えることがポイントではないか。交通ルールやマナーについて、地道に普及啓発をしていかないといけないと感じている。
- 自転車は、道路交通法で信号無視、片手運転は2万円の罰金になっている。酒酔い運転は5万円以下かな。交通違反になるということを、自転車を利用する人たちにはしっかり知ってもらいたい。

- 先日、「自転車活用推進法」が参院本会議で可決された。半年以内には施行されるということで、自転車ルール、マナーの周知や自転車レーンなどの整備、シェアサイクルを広げていくといった自転車の交通安全に関する部分が法律で決まった。「人にやさしい交通安全部会」としては、これらの取組について引き続き注目していく必要はあるが、我々がこれから実施していく取組としては、議論の対象から外しても良いのではないかと感じた。

<取組を行ううえでの対象について>

- 今後、交通安全の取組を進めていくにあたって、誰をターゲットとするのか、誰を1番守りたいかを考えた方が良いと思う。先日、登校中の小学生の列に自動車が出っ込むというショックな事故があった。きちんと交通ルールを守っている子どもたちが事故に遭うことに心が痛んだ。よく自分の子どもは交通事故に遭わず大人になったなと思う。子ども、特に小学生を守るという視点で、取組んでいければと思った。もう一つ、日本の標識が外国人には分かりづらいことがあるのではと思う。そこをカバーできる取組ができればと思う。
- 先日、交通安全センターで、0歳～90歳の中で一番交通事故に遭う件数が多い年齢は7歳であると聞いた。全国の統計なので、川崎市がそれに当てはまるか分からないが、その他資料にある「幸区内小学生事故発生場所」でも低学年の事故が多く発生していると記載がある。また、道路標識について、「とまれ」の記載では伝わらない外国人も多いのではないかと。幸区は人口比率に対して外国人の割合が高い。子どもが事故に遭う件数が多いということだが、その中には外国人や障害者も入ってくるのではないかと。高齢者の事故は依然として多いので、その問題も含めながら、子どもの事故を防止できる取組について、検討していけたらと思う。
- 7歳ということは小学1、2年生で、ちょうど親の手が離れて好奇心も旺盛。道路にパッと飛び出すこともあるかもしれない。住宅街や狭い道路などでは、自動車も極端にスピードを落として走らないといけないのではないかと。思う。

- ・小学生の子どもは、実は入学直後はあまり交通事故に遭わない。親がしつこく、また学校や地域の方も見守っている。慣れた頃から交通事故が起こり出す。
- ・交通ルールやマナーを守らない親も、子どもに言われれば直す場合もあるのではないかな。

<区内の交通事故発生状況の確認>

- ・幸区の交通事故の発生状況については、幸警察に確認した方がよい。「年齢別」「時間帯別」「外国人が関係する事故」を調査して、幸区の交通事故に傾向や課題があるようであれば、そこを解決していけるような取組を行っていったらと思う。

<様々な立場の人が区内道路でヒヤリ・ハットを感じる箇所について把握>

- ・交通事故は発生有無に関わらず、日常生活でヒヤリ・ハットを感じた箇所について、様々な人に確認する必要があると感じる。例えば、大人の目線と子どもの目線、また車椅子に乗っている人の目線は違う。看板は立っていても視界に入りづらい場合があるのではないかな。様々な立場の人によって、危険と感じる箇所は違うと思うので、それらを把握すると良いのではないかな。
- ・調査の対象に「障害者」を入れてしまうと、あまりにもケースバイケースが多すぎて調査がまとまらないのではないかな。優先順位として、「子育て世帯」「外国人」「高齢者」とすると良いのではないかな。

- ・確かに障害者は、身体障害といっても千差万別、そして障害者と一括りにすると、知的、精神の場合とかいろいろな方がいると思うが、今回は、日常生活で移動をする方に絞って良いと思う。電動車椅子で移動している方もいる。幸警察への調査でも、いろいろな答えが出てくると思う。調査の対象は広くなるが、みんなで手分けをしながら調査を実施して、幸警察からの回答等とクロスして、その結果から見える課題の解決に向けて取り組んでいけたらと思う。調べるだけ調べてみるという方法で良いのではないかな。その中で優先度が低いものが出てくれば取組の対象から外していけば良い。

- ・学校の特別支援学級には、障害がある子どもも通っている。また、学校には外国人の子どもも通っていると思うので、その子どもたちが調査の対象から外れないように取り組んでいかなければいけないと感じる。調査してみると、子どもと高齢者が関係する事故もあるかもしれない。子どもが関係する様々な事象が想定されるので、調査の対象としては、「子育て世帯」「障害者」「外国人」「高齢者」で良いのではないかな。

- ・第5期では自転車事故の発生箇所をマップにまとめた。今回もマップにまとめるという手法は同じとし、中身は、様々な立場の人に確認したヒヤリ・ハットを感じた箇所を落としていくということで良いのではないかな。

<その他>

- ・高齢者や障害者などは歩行が遅いわけだが、青信号の間に渡り切れるのか。交通量や道路幅の関係について検証していくと良いのではないかな。

	→第5期の区民会議で調査したところ、人間は1秒間に1m歩く計算で、 点灯時間は決まっているようで、必ずしも高齢者や足の不自由な方に合 わせているわけではない。だから当然、渡り切れない人も出てくると思う。 青信号は「進んでもよい」であって、「渡ってよい」ではない。そういつ たことも子どもに教えながら、その中に大人にも再認識してもらえると 良いのではと思う。 ・ソフト面でも充実しないと交通事故は減らないと思う。どのタイミングで 行っていくかは別として、認知度の低い交通マナーやルールを確認するこ とも必要だと思う。今後実施することを視野に入れながら、まずは調査を行 っていくと良いのではないか。 以上
--	--